

あかつき 同窓会報

編集と発行 田原東部小学校同窓会

題字 白井 優 (昭和15年卒)

印刷所 なつめ総業(有)

田原東部小学校区 R3.3.31現在			
—— 田原東部の人口 ——			
地区人口	児童数(R3.5.1)		
豊島	2,059	149	55
御殿山	431	603	34
谷川	190	745	8
やぐま台			33
合計	4,028	279	

心をつなぐ

同窓会長 彦坂 辰二
(昭和三十九年卒業)



昭和五十八年に同窓会報「あかつき」が創刊されて、今回で二十号を迎えます。

『同じ学校に学び遊んで育ってきた同窓生として、永い人生いながら人生を強く楽しく生き抜いていきたいと思っています。この会報が会員相互の連絡と明るい人生の道標となれば幸甚の至りに存じます。』当時の同窓会長佐久間正さんの創刊号での言葉です。

当時の山本文雄校長先生は、『今回発刊される同窓会報は会員同士を結ぶ糸であり、道である』と述べると同時に、校舎改築の寄付と会員名簿作成への感謝の言葉を述べています。

二人の文章から、会報発刊にかける当時の意気込みが伝わってきます。

翻つて昨年(令和二年)は、新

型コロナウイルスの大流行により、生命、健康、生活面で安全が脅かされ、各種行事や集会が中止もしくは簡略化されました。同窓会総会も書面決議方式で行われました。人と人が対面して意見の発表や交流をしたり、懇親を深めたりする貴重な機会が失われました。大変残念に思います。

今回、特集記事で取り上げたのは、戦争体験の継承です。戦後七十六年目を迎え、実際に戦争中の生活を体験した同窓生が、年々減ってきています。この機会に、貴重な体験を掘り起こし、会報に記して後輩達に伝えようと編集委員会では考えました。

同じ学年の友とのつながりを横糸とするなら、年度の違う先輩や後輩とのつながりは縦糸となります。先輩達の貴重な体験を特集記事に残すことで同窓会の財産としてつないでいきたいと考えました。

会員の心の中にはいつも母校の姿があります。校舎や町の姿は変わっても小学校時代の恩師や友の思い出はいつまでも消え

る事はありません。運動場にそびえる「えのみの木」のように、子供達の様子を優しく見守つて

います。

社会が変化する中で

田原東部小学校長 樽谷 哲郎



ますが、実際にその場に立つことで、風の爽やかさや電車の音、四季の変化など様々なことを感じる事ができます。

本校では地域の方々の協力を得て、栽培収穫体験を行っている、土の感触・葉や作物の香り、作物を見つけた感動、収穫後の食べる楽しみ等、実体験ならではの感覚が育てられます。また、学習活動への協力や登下校の指導など、多くのボランティアの方々に支えられています。そういった地域の方々と直接交流することでの人の温かさを感じます。

令和二年度に六年生と四年生が、終戦前日に起きた渥美線機銃掃射事件の体験者から当時の話を聞きました。戦争について、データや文献資料で調べることができません。しかし、自分たちが住んでいる地域で起きた話を実際に聞くことで、戦争の悲惨さ、理不尽さなどを感じ、戦争を起こしてはいけないという強い気持ちをもめました。

人に恵まれ人がつながるこの校区。そんな地域で育つ子供達は幸せだなと思います。ひと・こと・ものを通して実体験が、ふるさとの魅力、心の拠り所となることを期待しています。